日本哲学史研究

第　15　号

西田幾多郎における「表現」思想
——『善の研究』の成立と転回——……森　哲郎……一

場所の論理と自己存在の証明
——西田哲学の現代性——……岡田　勝明……四一

神仏のコスモロジーとしての雅楽……小野　真龍……六九

懺悔道という哲学における責任の問い……ジョン・C・マラルド……九七

内的経験としての「自覚」の形成
——『善の研究』から『自覚に於ける直観と反省』への歩みについて——
……城阪　真治……一三二

九鬼周造の時間論における二つの永遠の現在
——回帰的形而上学的時間における多と一の両立を手引きに——
……藤　貫　裕……一五五

2018 年 12 月

京都大学大学院文学研究科
日本哲学史研究室紀要

『日本哲学史研究』バックナンバー目次

第１号（2003）
藤田正勝「和辻哲郎「風土」論の可能性と問題性」
伊藤徹　「幻視された「自己」」
ブレット・デービス「退歩と邂逅――西洋哲学から思索的対話へ――」
杉本耕一「西田哲学の「転回」と「歴史哲学」の成立」

第２号（2005）
平田俊博「日本語の七層と現象学的優位――日本語で哲学する――（前）」
古東哲明「臨生する精神――日本人の他界観――」
宮野真生子「美的生活の可能性と限界――柳宗悦「第三の道」とは何か――」
藤田正勝「西田哲学と歴史・国家の問題」

第３号（2006）
片柳榮一「アウグスティヌスと西田幾多郎」
林鎮国　「西谷啓治――空と歴史的意識をめぐって――」
岡田勝明「日本思想における二重言語的空間――西田幾多郎の場合――」
ステフェン・デル「真の自己の否定性――上田閑照の「自己ならざる自己」の現象学――」

第４号（2007）
清水正之「哲学と日本思想史研究――和辻哲郎の解釈学と現象学のあいだ――」
藤田正勝「西田幾多郎の国家論」
杉本耕一「歴史的世界における制作の立場――後期西田哲学の経験的基盤――」
ジェラルド・クリントン・ゴダール「コケムシから哲学まで
――近代日本の「進化論・生物学の哲学」の先駆者としての丘浅次郎――」
《書評》高坂史朗　藤田正勝著『西田幾多郎――生きることと哲学』

第５号（2008）
岡田安弘「西谷啓治における「科学と宗教」の現代的意義
――生命科学の危機的な諸問題を前にして――」
黄文宏「西田幾多郎の宗教的世界の論理――新儒家の宗教観との比較を兼ねて――」
シルヴァン・イザク「西谷における自他関係の問題」
守津隆「西田哲学批判としての「種の論理」の意義」

ダニエラ・ヴァルトマン「「絶対無」としての「絶対的生」とは何か
——ミシェル・アンリと仏教あるいは田辺元との対話——」

第６号（2009）

伊藤徹「過去への眼差し——『硝子戸の中』の頃の夏目漱石——」

上原麻有子「翻訳と近代日本哲学の接点」

城阪真治「下村寅太郎の科学的認識論——表現作用としての「実験的認識」について——」

日高明「中期西田哲学における質料概念の意義」

濱太郎「西田における形の生命論」

第７号（2010）

米山優「モナドロジーを創造的なものにすること
——〈モナドロジックでポリフォニックな日本の哲学〉に向けて——」

細谷昌志「『マラルメ覚書』と「死の哲学」——田辺哲学の帰趨——」

林晋「「数理哲学」としての種の論理——田辺哲学テキスト生成研究の試み（一）——」

呉光輝「西田哲学と儒学との「対話」」

杉本耕一「京都学派の仏教的宗教哲学から「倫理」へ」

第８号（2011）

高橋文博「和辻哲郎の戦後思想」

田中美子「個性の円成——和辻哲郎「心敬の連歌論について」を読む——」

熊谷征一郎「「存在と無の同一」としての「生成」の意味をめぐって
——西田によるヘーゲル生成論批判の妥当性と意義——」

《書評》水野友晴　井上克人著『西田幾多郎と明治の精神』

第９号（2012）

行安茂「西田幾多郎とＴ・Ｈ・グリーン」

林晋「澤口昭聿・中沢新一の多様体哲学について
——田辺哲学テキスト生成研究の試み（二）——」

岡田安弘「現代生命科学の発展と西田の生命論」

ブレット・デービス「二重なる〈絶対の他への内在的超越＞
——西田の宗教哲学における他者論——」

第 10 号（2013）

《特集・間文化（跨文化）という視点から見た東アジアの哲学》

張政遠「西田幾多郎の哲学――トランスカルチュラル哲学運動とその可能性――」

林永強「西田幾多郎とT・H・グリーン――トランス・カルチュラル哲学の視点から――」

黄冠閔「哲学と宗教の間――唐君毅と西谷啓治における近代性をめぐる思索――」

熊谷征一郎「西田によるヘーゲル生成論批判の射程」

太田裕信「場所の論理と直観
――西田幾多郎『働くものから見るものへ』と『一般者の自覚的体系』――」

シモン・エベルソルト「九鬼周造における現象学と形而上学の交わりの問題」

第 11 号（2014）

《藤田正勝教授・日本哲学史専修退職記念号》

藤田正勝「凍れる音楽」と「天空の音楽」

福谷茂「藤田さんのこと」

氣多雅子「西田幾多郎とセーレン・キェルケゴール――「実践哲学序論」の一考察――」

杉村靖彦「「種の論理」と「社会的なもの」の問い
――田辺、ベルクソン、フランス社会学派――」

水野友晴「大拙禅における主体性の問題――日本哲学からの発信の試み――」

杉本耕一「明治日本における宗教哲学の形成と哲学者の宗教的関心
――清沢満之を中心に――」

城阪真治「『善の研究』における「哲学的思想」とその方法」

日高明「思慮分別はなぜ純粋経験ではないのか」

満原健「志向的意識と場所的意識」

中嶋優太「形成期西田哲学とヴィンデルバントの共有地
――意志的なものというスローガンと文化主義をめぐって――」

太田裕信「二つの行為の哲学――西田・田辺論争をめぐって――」

石原悠子「西田における「アプリオリ」概念」

ダニエル・バーク「前近代の日本思想と日本哲学の境界
――デューイ、フッサール、パトチカを手がかりに――」

藤田正勝教授・著作一覧

第 12 号（2015）

小林敏明「西田の思考と日本語の問題」

氣多雅子「西田の「個物と個物との相互限定」をめぐって」
河野哲也「母性保護論争のフェミニスト現象学からの解釈（1）」
ラルフ・ミュラー「応答の心が交差する小径」としての〈感応道交〉
——道元のフェミニズム的解釈——
竹花洋佑「種の自己否定性と「切断」の概念」
小島千鶴「西田幾多郎と久松真一における救済の問題」
八坂哲弘「西田幾多郎のフィードラー受容とリップス の「感情移入」説」

第 13 号（2016）
納富信留「西田幾多郎と田中美知太郎——日本哲学とギリシア哲学の協働のために」
芦名定道「南原繁の政治哲学とその射程」
廖欽彬「井筒俊彦の意識哲学における言葉と芸術」
服部圭祐「「人間の学」から「倫理の学」へ ——和辻哲郎の「倫理学」体系の形成過程」
名和達宣「哲学者・杉本耕一氏との対話」

第 14 号（2017）
氣多雅子「京都学派における「宗教」の概念」
合田正人「「種の論理」論争をめぐって——高橋里美、務台理作再考——」
中島隆博「循環し、競合する概念——プラセンジット・デュアラの
「対話的超越」と鈴木大拙の「日本的霊性」をめぐって——」
志野好伸「大西祝と和辻哲郎における忠孝概念」
檜垣立哉「西田とバロック哲学」
ロルフ・エルバーフェルト「行為的直観と形成的現象学（Transformative Phänomenologie）
—— 西田哲学の将来を考える——」
上原麻有子「「名」と「実存」——九鬼周造の哲学を巡る一考察——」
ファビアン・シェーファー「メディア哲学としての京都学派」

執筆者

森　哲郎　京都産業大学教授

岡田勝明　姫路獨協大学教授

John C. Maraldo（ジョン・C・マラルド）ノースフロリダ大学名誉教授

小野真龍　天王寺舞楽協会常任理事

城阪真治　関西学院大学非常勤講師

藤貫　裕　京都大学文学研究科博士後期課程

翻訳者

竹花洋佑　大谷大学非常勤講師

日本哲学史研究　第十五号

二〇一八年十二月二十五日　発行

発行者　京都大学大学院文学研究科
日本哲学史研究室
京都市左京区吉田本町

製作　株式会社タマプリント
青梅市長渕八－一九八－六

STUDIES
IN
JAPANESE PHILOSOPHY

NIHON TETSUGAKUSHI KENKYU

Vol. 15 December, 2018

The Concept of "Expression" in Nishida Kitarō: the Formation and Development of An Inquiry into the Good ····· MORI Tetsurō

The Logic of Place and Evidence of Self-Existence: Modernity of Nishida Philosophy ····· OKADA Katsuaki

Gagaku as Representation of Japanese Religious Cosmology ····· ONO Shinryū

The Question of Responsibility in Metanoetical Philosophy ·· John C. MARALDO

The Construction of Self-Awareness as Inner Experience: On The Development of Nishida Kitarō's Thought from An Inquiry into the Good *to* Intuition and Reflection in Self-Awareness ····· SHIROSAKA Shinji

Two Kinds of Eternal Present in Kuki Shūzō's Metaphysics of Time ·····FUJINUKI Yū

DEPARTMENT OF JAPANESE PHILOSOPHY
GRADUATE SCHOOL OF LETTERS
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto, Japan